

令和4年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22081	事業名	個の学び支援事業(小学校)		評価分類	A1		
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()							
	施策体系	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実			予算科目	会計	01:一般会計	
		基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実				款	10:教育費	
		施策の方向	05:一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進				項	02:小学校費	
		重点プロジェクト	04:「未来へのピラ」プロジェクト				目	01:学校管理費	
事業期間	H 20 年度	～	R - 年度	主な根拠法令等	-				
担当部署		部 教育委員会事務局 課 学校教育課 学事教職員G							

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	特別な支援を必要とする児童が増加しており、医療行為や別室での個別対応など、支援の内容も多様化している中、児童の実態把握を丁寧に行い、個々の状況に応じた適切な支援を実施する必要がある。	小学校の特別支援学級に在籍する児童および通常学級に在籍し特別な支援を必要とする児童	学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な支援を行うことで、特別な支援を必要とする児童が、安心安全に、かつ自立した学校生活を送ることができている。	各学校の状況に応じて、介助員、生活支援員、学習生活相談員、看護師を配置する。

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
③ 事業の実施状況 (P・D)	事業計画	○介助員の配置 ○生活支援員の配置 ○学習生活相談員の配置 ○看護師の配置	○介助員の配置 ○生活支援員の配置 ○学習生活相談員の配置 ○看護師の配置	○介助員の配置 ○生活支援員の配置 ○学習生活相談員の配置 ○看護師の配置	○介助員の配置 ○生活支援員の配置 ○学習生活相談員の配置 ○看護師の配置		
	活動実績 (計画通り実施できたか)	特別な支援を必要とする児童が安心安全に学校生活を送ることができるよう、介助員等を適切に配置した。 ○介助員:9小学校 36人配置 ○生活支援員:2小学校 2人配置 ○学習生活相談員:8小学校 8人配置 ○看護師:1小学校 2人配置					
計画額	事業費	事業費	80,200千円	73,900千円	82,200千円	82,700千円	81,300千円
		国・県支出金	1,300千円	1,125千円	1,300千円	1,300千円	650千円
		地方債					
		その他					
	一般財源	78,900千円	72,775千円	80,900千円	81,400千円	80,650千円	
決算額	事業費	事業費		72,161千円			
		国・県支出金		1,125千円			
		地方債					
		その他					
一般財源		71,036千円					
①期間内事業費(R4-7)		326,400千円	②期間外事業費(R8-)	-	①+②総事業費	-	

(令和4年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	73,900千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	介助員の配置率	成果	%	計画値	100	100	100	100
				実績値	92			
支援情報の引継ぎの割合	個別の指導計画等を作成し引継ぎができていない児童の割合	成果	%	計画値	100	100	100	100
				実績値	100			
学校生活の満足度	学校満足度調査における支援を必要とする児童の保護者の満足度	成果	%	計画値	92	92	93	93
				実績値	91			

⑤ 成果 (C)	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
A	特別支援学級在籍児童だけでなく、特別な支援を必要とする児童が増加する中で、生活支援員、学習指導員等を配置することで、児童が心身ともに安心して学校生活を過ごすことができている。児童の生活面、活動面及び学習面において迅速かつ臨機応変に対応できる特別支援体制を作り上げることができている。
十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
小学校の特別支援学級に在籍する児童および通常学級に在籍し特別な支援を必要とする児童	学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な支援を行うことで、特別な支援を必要とする児童が、安心安全に、かつ自立した学校生活を送ることができている。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	今後も特別な支援が必要な児童の増加が見込まれるため、子ども支援グループと連携し、児童の実態や支援情報の引継ぎ、共有をより一層密に、丁寧にしていく必要がある。また、今後も支援の強化のため、介助員、支援員等は継続して配置することが必要だが人材確保が困難である。

⑦ 事業の展開 (A)	方向性
	継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容
	令和5年度で対応する(した)もの にじいるノートや個別の指導計画を活用し、適切な支援を継続するとともに、支援情報が確実に引き継がれる仕組みを徹底していく。
	令和6年度以降で対応するもの 介助員・生活支援員及び学習生活相談員等への指導助言が行える体制を整える。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
【履歴】	成果判定	A		
	事業展開	継続(現状維持)		

1次評価者	教育委員会事務局 学事教職員GL 宮本 亜吏紗
最終評価者	教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏